

# グーデア科胎生魚 *Xenotoca eiseni* の胎仔が持つ 『へその緒ではない』構造物の話

飯田 敦夫

(京都大学再生医科学研究所 再生増殖制御学分野 助教)

2015年 3月 20日 (金) 15時～  
14号館地下1階 多目的レクチャールーム

脊椎動物の繁殖様式は「哺乳類は胎生、それ以外は卵生」と大まかに認識されていて、それは概ね間違いではありません。しかし何事にも例外はあります。哺乳類であるはずのカモノハシは卵を産みますし、魚類や爬虫類にも次世代を赤ちゃんで出産する種が少なからず存在します。

私は、メキシコ原産のグーデア科胎生魚という、言わば“例外的な魚”を研究材料としています。グーデア科の一種である *Xenotoca eiseni* の雌は、交尾により体内受精して妊娠します。お腹の中の胎仔は、腹部からリボン状の構造物を伸ばして、母親由来の栄養分を吸収します。そう、へその緒に似ています。でも、へその緒ではありません。

卵生と胎生は、何が同じで、何が違うのか？そもそも例外的な珍魚を研究するモチベーションは何なのか？生き物の不思議さ、面白さを伝えられるセミナーを目指します。



*Xenotoca eiseni* の胎仔